

やりゆりのでえ



きょうは天気もえいき
あぐりのさとで
ごはんを食べんかえ

◆頑張っている人物やグループを
広報編集委員が紹介します。担当/田中 たい子

山北みかん共選場をどんどん北へと車を走らせると、西川地域の田園の中に大きな古い木の株と素朴な木の建物「あぐりのさと」があります。ここには、地域の人たちがなんとか山間地域を元気にしようと考え、活動してきた苦勞の物語があります。



あぐりのさと誕生

平成7年、山間地区の活性化のため、西川地区の50人ほどの有志で立ち上げた協議会。貸し農地や、施設づくりなどの構想があり、女性部による産直市の活動を続けてきました。さまざまな壁にぶつかり結局残った活動が「あぐりのさと」。この建物は行政の援助と、地域の人たちの労力で完成しました。

「わしらぁお金がないきん、材木を提供したり大工さんと一緒に木を運んだりして、毎日いっしょに働いた」と副会長の行宗正浩さん(68歳)。「数カ月間仕事をさっすのけて朝から晩までやったけど、今思ったらみんなあようやった」と笑う柳本章会長(62歳)。

ふれあいの場

「今日は『おえんどう祭り』です。みなさん、どうぞ召し上がってください」と笑顔でお客様に声をかけながら、えんどうご飯と、しし肉煮をふるまう女性部の皆さんの声がこのお店をますます温かい雰囲気包んでくれます。土、日のみ営業の店は、朝からひっきりなしのお客様で賑わっています。人気のモーニングセット(500円)



明るい山間地域をめざして

「この課題は、商品をいかに揃えるかやね。せつかく来てもらうっても、昼過ぎにはもう売れるもんが少のうなる。すぐに補充しようと思うても間に合わん」と、柳本章会長。「山菜や柚子の皮やその他の原材料もいろいろあるき、保存する場所が必要やね。今後は、地域の若い人や行政と力をあわせて、地域のを活かした商品づくりにも挑戦していき、観光にもつなげる取り組みをしていけたら」と、山間地域を活かしたまちづくりにかける情熱の物語は、まだまだ続きそうです。



編集後記

▼「注文の多い料理店」は宮沢賢治の生前に出版した唯一の短編集だそうです。その「発行人」の近森善一氏は野市町出身！叙勲の取材でお会いした筒井さんが「世に出ていないいまの偉人を広報で」と教えてくれた話の一つです。賢治の「雨ニモマケズ」が心に染み込みました。(井)

▼「住吉山海まつり」は、地元漁師さんがアイデアを出し合って実現したイベントです。少し不器用だったけれど海の恵みに感謝する想いや、楽しんでもらいたいという気持ちで伝わってきました。来年も楽しみです。(m)

▼香我美町舞川で行われた「大蛇藤ふれあい運動会」。限界集落と言われているこの地域にたくさんの老若男女が集まり、にぎやかな声と笑顔が溢れました。「縄なし」など昔の生活を再現した競技が行われ、丸太切りに私も参加。これまた筋肉痛がチョー気持ちイイ(´▽`)S

▼6月といえば梅雨。そしてジューンブライドですね。カレンダーの挿絵を選びながら、未だお嫁に行けない我が身を嘆く日々…どこかにお嫁さん落ちてないかなー(み)

※広報へのメール

kouhou@city.kochi.konan.lg.jp
香南市のホームページ
http://www.city.kochi.konan.lg.jp

毎月1回のイベント紹介(第2土日)

- 6月 もちつきまつり
- 7月 ハウスみかん、スイカ、1も天まつり
- 8月 青ゆず、ゴーヤまつり(夏バテふっとなせまつり)
- 9月 新米まつり

